

令和4年度第1回広島市社会教育委員会議 会議要旨

日 時：令和4年8月9日（火）午後3時30分～5時25分

場 所：広島市役所本庁舎14階第7会議室

公開・非公開の別：公開

傍聴人：6名

出席者：(1) 委員 9名

砂橋議長、平尾委員、岩元委員、松本委員、湯浅委員、金谷委員、板倉委員、鈴木委員、山田委員

(2) 事務局 6名

生涯学習課長、生涯学習課課長補佐ほか

【議事（会議要旨）】

広島市立図書館再整備方針（素案）について

生涯学習課長が、資料に基づき、「広島市立図書館再整備方針（素案）」について、概要を説明した。

<意見、質疑等>

（平尾委員）

質問等の前に、基本的な事を一つ確認したい。前回の会議で配付された広島市立中央図書館等再整備基本計画（案）と、今回配付された広島市立図書館再整備方針（素案）との関係を教えてほしい。前回の基本計画は、エールエールA館への移転ありきで記載されていたが、今回、改めて、場合によっては3案比較をするという中で、この基本計画が今後どう展開していくのかということをお教え願いたい。

（生涯学習課長）

本年2月に、お示しした広島市立中央図書館等再整備基本計画（案）は、エールエールA館に再整備する前提で示したものであるが、そのコンセプトは、整備地にかかわらず、本市の図書館にあるべき姿として整理したものである。議会の付帯決議を受けて、そのコンセプトを踏まえた上で、図書館の機能について再度整理したものが、今回お示しした広島市立図書館再整備方針（素案）である。

（平尾委員）

比較検討の結果、整備地がエールエールA館以外の場所になれば、そこに関する記載は書き換えられると理解した。

その上で、今回の再整備方針（素案）の内容について、三点確認したい。

一点目として、再整備方針は、社会教育委員会議や図書館協議会、市民の方々の意見を踏まえて、図書館に必要とされる機能やサービスを分野別に並べたものと考えられるが、その中の優先順位が分かりづらく、国際平和文化都市をうたう広島市の図書館の方針としては、物足りないという印象を受けた。

そこがあつて初めて、パブリックコメントを募集した時に、良いか悪いかという意見が出てくるのではないかと。この段階でコメントを求められても、全て盛り込まれている感じもあり、良い悪いを判断する以前の段階ではないかと感じた。

同時に、内容に関しては、広島市の図書館の再整備方針である以上、まずは、広島市として図書館をどう考えるかという理念が全体としてあつた上で、中央図書館、各区の図書館、こども図書館の位置付けがでてくるような、ネットワークとしての機能を明確にしてから、各図書館について論じた方がよいのではないかと感じた。

二点目として、議会の付帯決議の中でも、有識者に説明し理解していただいた上で、基本設計、実施設計の段階で、広く意見を取り入れつつ進めていくと言っていたが、その有識者が、社会教育委員会議及び図書館協議会だけでよいのだろうかということ強く感じている。専門性という点において、建築や歴史、まちづくりといった視点が不足していると思うので、図書館や社会教育だけではない別の分野の専門家からの意見も必要なのではないか。年に数回の会議ではなく、このことに特化した審議会などを立ち上げて、1年程度は十分時間をかけて議論をしていく必要があるのではないかと改めて感じた。

三点目として、現在、再整備方針についてパブリックコメントを募集していることを周囲に伝えて、良い悪いではなく、まずはみんなの図書館としてしっかり考えようと取り組んでいるが、市民の理解度、認知度がまだまだ追いついていないというのが実感である。さらに、先ほどの有識者による深い検討が必要であることを考えると、年度内に候補地を決定するというのは、期間が短すぎるのではないかと。検討期間を延長すべきではないかと考えているが、もし延ばせないという理由があるのであれば、教えていただきたい。

いずれにしても、国際平和文化都市を掲げる広島市の文化の根幹ともいえる図書館の再整備が、場当たり的な展開で進んでいくのはもったいないと思う。何世代にも誇れるような図書館を作るという意味で、しっかりとした審議が必要なのではないかと思う。

(生涯学習課長)

まず、再整備方針の素案について、広島市として何を優先するのか分かりにくいという点については、今後、案にまとめる段階において、整理を工夫して、本市として目指すところが分かりやすく示るように考えたい。

次に、専門家の意見を幅広く聴取すべきではないかという点について、本市としては、図書館協議会及び社会教育委員会議のいずれも、学校教育や社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う方、学識経験者及び公募により選ばれた市民の方を委員としているので、図書館の再整備について意見を聴取するにふさわしい有識者であると認識している。基本設計・実施設計の段階においては、建築等の分野の専門家の意見も伺いながら進めていくことになると考えている。

次に、検討期間を延長すべきではないかという御意見について、中央図書館は、築40年以上が経過しており、雨漏りや壁面に亀裂が生じるなど激しく老朽化が進んでいることや耐震の問題もあることから、早急に改修する必要があり、できるだけ速やかに再整備を進めていきたいと考えている。

(平尾委員)

二点目について、これから新しい審議会を立ち上げるというのは、手続き的に難しいのかもしれないが、年に2回程度の審議で、この図書館の問題を決めていくというプロセスに違和感がある。しっかりとこの問題に特化した委員会なり懇談会が作られてしかるべきではないか。我々は賛成であるとか反対であるとか言えない立場であることを前提にすると、この会議の審議により図書館の問題が決まっていくというのは、話が大き過ぎるのではないかと言わざるを得ない。

(生涯学習課長)

本市としては、この会議で会の意見をまとめて何かを決めていただきたいと考えているわけではなく、委員の皆様それぞれの立場から御意見をいただき、図書館の再整備に反映させていきたいという趣旨なので、色々な御意見がいただければ有り難い。

(砂橋議長)

今の議論を整理すると、一点目の、市のコンセプトが見えにくいという点については、今回の会議で出された意見や、パブリックコメントにより集まった市民の様々な意見を基に、再度整理されるということ期待したい。

次に、二点目の、既存の審議会だけで決定していくのがどうかということについては、私も感じるころではあるが、課長から話があったとおり、設計等の段階では建築等の専門家の意見も聞きながら進めるということなので、今回は、図書館の基本的な機能について御意見をいただきたい。例えば、我々が、この場において、このようなコンセプトがあるのではないかと提案をすれば、案に載ってくる可能性もあるので、その点についても御意見をいただければと思う。

三点目については、納期ありきで拙速にならないようにという御意見として、事務局には受け止めてほしい。

(松本委員)

前回から今回にかけて、頑張って整理されたということは少しうかがえた。

前回の会議において、移転することによるメリット、デメリット及び移転しないことによるメリット、デメリットを示してほしいという意見が委員から出たが、それについては精査中であると受け止めている。

まず、この図書館の再整備について、市民の熱量がどの程度であるのかということは気になっていて、すごく興味がある人とトピック自体を知らない人がいるように思う。この問題が市民にしっかりと周知されているといえるのだろうか。パブリックコメントを実施するにしても、強い思いがある方の声は上がってくるが、その一方で、まだ声を上げられるような状況にないという方もいる。市民により積極的に情報提供することによって、様々な意見が上がってくるのではないかと。

その上で、政令指定都市としてのコンセプトがどうあるべきか考えたときに、コンセプトは、市民自らが考える必要があるのではないかと思う。市民が主体的に考え、このようなコンセプトで進めてもらいたいという意見が最終的に上がってきて、ようやく決められるのではないかと。上から決めるのではなく、市民の意見をもっと吸い上げることが必要である。特に子どもたちや学生の意見を吸い上げること

ができれば、幅広く意見を集めることができるのではないかと。

また、いつまでに整備地を決めるかということについて、拙速になってもいけないが、いつまでも引き延ばすのも妥当ではなく、私自身も、社会教育委員として、日頃から市民の意見をよく聴きながらこの議場に上げていくことも我々の役割であると考えている。そのためにも、しっかりと情報共有をしながら進めていただきたい。

(生涯学習課長・主幹)

パブリックコメントの実施に当たり、これまでは市民と市政や本市のホームページ等に掲載していたが、今回は初めて広島市の SNS を活用した。本市の SNS として、Twitter、Facebook、LINE があり、合わせて 10 万人以上の登録者がいるので、これを活用し、今後は毎週 1 回は発信していきたい。委員が言われたとおり、これまでとは違った多様な意見が寄せられるのではないかと期待感があり、特に若年層の意見を拾いやすくなるのではないかと考えている。

(板倉委員)

私は母親クラブという子ども達に近いところにいるので、色々と意見を聴いてみたところ、図書館については、皆さんが夢を持っていらっしゃると感じたので、せっかくなら夢のある図書館を作っていただきたい。子どもが本を好きになり、映像的なものも含めて楽しめる、行ってよかった、よい 1 日だったといえるような場所を作っていただきたいという多くの意見を聞いた。

さきほど説明のあった SNS で意見を募集するというのは、若年層の意見を集める上で、大変良い取組だと思う。

また、Wi-Fi 環境の整備や zoom による講座の開催などが様々な場所で可能になれば、遠方の人と会議ができるなど、有効に使えるので、そういったところにも力を入れていただきたい。

先日、こども文化科学館を視察したところ、子どもたちに様々な体験をしてもらうために、色々な工夫をしていた。他県の施設をみても、映像を使ったコンテンツを取り入れるなど、非常に充実している。図書館も、新しい世代に向かって、ぜひ充実した内容にしてほしい。そういった場所があれば、子どもたちが夢を持って楽しめると思う。

(生涯学習課長)

市民の皆様にはしっかりと使っていただける図書館にしたい。

(山田委員)

まず、この会議の趣旨が不明なところがあり、前回との繋がりを考えたときに、前回は移転をする、しないという議論をしたが、今回は何について論じればいいのか。今回の資料は、どのような機能が図書館に求められるかということが列記されているので、新しい図書館にこのような機能が欲しいという意見を出せばいいのか。そうであれば、特に我々委員が話す必要はないように思うが、何が求められているのか教えていただきたい。

(生涯学習課長)

今回の会議の趣旨は、これまでにいただいた意見をまとめた再整備方針の素案について、社会教育委員会委員の皆様それぞれの立場から、こういった図書館がよいのではないかとか、このような機能が必要ではないかといった御意見をいただきたいというものである。

(山田委員)

そういった趣旨であれば、我々ではなく、現在実施されているパブリックコメントなどで広く募集をされたらよいと思う。また、他の図書館における取組なども紹介していただければよいのではないかと思う。

その上で、何点か確認したいが、第2章の意見はどのように集めたのか。

(生涯学習課長)

第2章に記載された意見については、2月に基本計画(案)をお示しした後に、議会や審議会において出された意見や、要望としていただいた意見等を取りまとめたものである。

(山田委員)

特に体系的に集められたものではないと考えて間違いないか。

(生涯学習課長)

基本計画(案)を示した後は、市民意見募集等を実施していない。市民意見募集はこれから実施し、再整備方針の素案に反映させていくつもりである。

(山田委員)

皆で夢を語ろうというこのような形が悪いと言っているわけではないが、たたき台にするものが恣意的に集められている様に見えるところがある。これから意見を募って広げていくたたき台ということであれば、理解できないことはないが、この素案について話をし、今後どのように展開していくのかということが見えにくい。

素案に対する印象は、夢を語るというか、どういうことができたらいいという意見が列記されていると感じた。デジタル化を推進したり、図書カードを持参しなくてもスマートフォンで本が借りられるようにして利便性を向上するなど、様々な機能が必要だとは思いますが、市民の利便性という観点以外にも、図書館自体が持つ機能というものがある。一つは資料をいかに蓄積していくかということで、本をどれだけ持っているかということ、それに加えて、広島市であれば、広島市が持っている貴重な資料、例えば、戦争に関する資料や江戸時代以前の資料などをいかに保存するかということを検討する必要がある。それらはある種のアーカイブであるので、広島市の顔でもある。顔になるものをどのように位置付けるのかということも考えていかなければいけない。機能についてだけではなく、ランドマーク的な建物にするのか、あるいは、皆がアクセスできる交通の便がよい場所にあることが重要であると思うのか、その辺りの議論もしないと具体的な話ができないように思う。機能だけではなく、広島市や市民が図書館にどのようなあり方を期待するのかということも含めて議論した方が有意義だと思うので、

その辺りを考えていただきたい。

(生涯学習課長)

いただいた御意見は参考にしながら、しっかりと検討していきたい。

(砂橋議長)

この社会教育委員会議が次は11月頃に開催される予定だが、我々委員から出た意見もできれば組上に上げてもらって、検討ができれば有り難い。難しいところがあれば、委員にヒアリングしてもらってもよいと思う。

(岩元委員)

地域の小学校で図書ボランティアなどもしているので、こども図書館について、周囲に意見を聞いたところ、立地や環境等の問題はあるものの、伝統を守りつつ大きく進化していこうとしているというところに、大きな期待が寄せられていると感じた。

今回の素案は、現在も提供しているサービス等を明文化したものであるという印象を受けた。デジタル化の推進については、これから大きく進化していく部分であると理解できたが、それ以外でどういった点が進化していくのかということが、もう少し明確になればよいと思う。図書館にとって、本が子どもたちにとって友となり人生の助けとなるように、子どもたちと本を繋いでいくことが大切な役割である。資料8ページのこども図書館の「広島の歴史・文化等を学べる場の提供」について、1行でまとめられているが、広島の歴史等を次世代に伝えていく責任や、世界に発信していく責任という意味合いもあるのではないかと感じた。

(生涯学習課長)

現在の図書館にもあるような機能の羅列になっていて、新たに進化するところが分かりにくいという御指摘については、今後広島市としてどのような図書館を目指すかということの優先順位等を検討して、再整備方針案を作成する段階で整理の工夫をしていきたいと考えている。

重要と考えている機能の一つとしては、多様な空間を提供することがある。現在はスペースが限られているので難しいが、寝転がって本を読んだり、喋りながら本を読むことができるスペースを設けるなどして、親子で使いやすい図書館を目指していきたいと考えている。

(金谷委員)

パブリックコメントを実施して、市民の意見を広く聴く機会を設けたという点については一歩前進と評価している。

しかし、一方で、この素案を見て私個人がコメントすることは非常に難しい。なぜかという、「再整備する場所に関係なく、求められる機能やサービス等について意見を募集します」と記載されているが、今回議論の対象になっている図書館という施設のアウトラインが見えていないからである。色々な夢を語ることももちろん大切だと思うが、どういう対象物について意見を求めているのかということが、残念ながら示されていない。それについては、以前の会議で、これを施設として整備する上で、使

える予算やどのくらいの規模のものを想定しているのかというところをある程度押さえた上で議論する必要があると申し上げた。おそらく、夢はエンドレスに出てくるが、いろいろな制約がある中で、優先順位やコンセプトを軸に、残念ながら落ちていかなければならないものが出てくる。全てが叶えられない中で、最終的にどのくらいのことができるのかという想定がないのに、希望をエンドレスに言うだけではゴールになかなかたどり着かないのではないかと思う。

施設整備計画を進める上で前提となる、規模や予算を想定したスケッチが必要で、それを描こうとするならば、現状の図書館についての評価、すなわち、今の図書館は何ができて何ができていないのかという現状分析が必要である。

将来の図書館に必要とされる機能を考えたときに、時代は変わっていくので、現在ある機能の中には継続するものもあれば縮小するものもあると考えられ、50年前に作られたものなので、今後付加しなければならない機能もある。残念ながら、現状を踏まえた分析を見せていただけていないので、良い悪いの前に議論ができないという意見である。

また、もっと議論が必要ではないかということも私も痛感しており、可能であれば、図書館の司書を含む現在の図書館の専門家が今の図書館をどう評価しているのか聞きたい。そして、残念ながら私は図書館の専門家とは言い難い立場なので、社会教育委員会会議においても、図書館の専門家の意見を聞く場を設けていただき、議論ができれば有り難い。

(生涯学習課長)

これまでの図書館については、冒頭で説明した『『まちの図書館化をめざして』21世紀広島市図書館計画の提言』や「広島市立図書館サービスのあり方について」の中で整理している部分もある。

その中で、これまでの図書館の課題としては、老朽化や狭隘化により、魅力的かつ個性がある都市構築のための閲覧や書庫のスペースの確保及び空間づくりが困難になっていること、SNSを活用した図書館サービスのPRが不足していること、図書館ボランティアの活動する機会が不足していることなどの課題があると認識しており、この課題についても再整備方針の中で触れている。

また、この素案は、図書館の職員とも意見交換をしながら作成したものである。会議の場で、図書館職員の意見を聴きたいという御意見については、検討させていただきたい。

(砂橋議長)

前回の会議で、金谷委員は、図書館評価の方法について具体的に詰めていく必要があるという御提案をされている。その点に関して、今回の資料からは見えてこないということは、私も感じたところである。我々が出した意見に対してのフォローがあれば有り難い。

(鈴木委員)

前回の会議では、エールエールに決まっているのではという印象を受けたが、今回は市民や議会のいろいろな意見を踏まえて、基本に立ち返り、図書館に本当に必要とされる機能について、素案として整理されたものと理解した。

いつまでも決められないでいると、時代が先に行ってしまうので、あまりゆっくり検討する時間はないのではないかと思う。再整備するのであれば、皆様のためになるきちんとした図書館を早く作ってい

ただきたいと思うが、最終的にいつまでに作る予定か。今後の計画が分かれば示していただきたい。

(生涯学習課長)

整備地によって期間も変わってくるので、今後の具体的なスケジュールをお示しできるのは、整備地が決定してからになる。ただ、委員が言われたとおり、時代の流れから遅れてはいけなし、図書館自体の老朽化も著しいので、そこまで長い時間はかけられないと認識しており、短期間で図書館の再整備を実施していきたい。

(湯浅委員)

個人的な夢かもしれないが、再整備に当たり、広島独自の図書館を作っていただきたいと考えており、また、そういったものを作ろうという意欲は感じているところである。

素案の中で、「広島の歴史、文化等を学べる場の提供」、「平和への思いの共有や、まちづくりや地域課題解決に役立つ場の提供」、その中でも「平和を願う『ヒロシマの心』を市民と共有するとともに、広域的に発信する『広島を知る』エリアの設置」という表現があり、私は非常にそこに期待している。

以前も話したとおり、「広島を知るエリア」の一角でもよいので、平和学習資料室を是非とも設けていただきたい。広島ゆかりの作家の文学資料や平和記念資料館等との連携による被爆関連資料などの保管・管理に当たっては、市民が自由に閲覧・活用できるということが非常に大事である。

それに加えて、広島に生きる小中高生それぞれの発達段階に応じて、今現在どういった平和の維持発展に関する学習を行っているかということについて、十分に理解されていないのではないかと感じている。市民であっても、なぜ8月6日に市内の小中高生が登校しなければいけないのかという声を聞くことがあるが、8月6日は大切な平和学習を行っているのであるから、中央図書館に、平和学習の具体的な内容が分かる資料を揃えていただきたい。他県や他市町村では、平和学習とはいったい何か、そもそもこの平和な時代に実施する必要があるのかという人もいる。修学旅行で、平和記念資料館を見学して、平和公園で慰霊碑巡りをしているのだから、それで十分ではないか、と言われることもある。本当にそのレベルでよいのだろうか。広島では、小中高の12年間平和学習を実施しており、被爆直後から平和学習が進められている。過去には政治的に課題があった時期もあるが、今や政治的にも思想的にも全く中立の立場から、市教委又は各学校独自で指導資料を準備して、指導案を作成し、指導計画を立てて、教育活動を実施している。中央図書館にこのような資料を揃えて、子どもたちが12年間かけていかに平和への思いを育んできているのかということ、市民はもちろんのこと、他県、他市町村の方々も理解できるような、「広島を知るエリア」を作っていただきたい。現在、ロシアによるウクライナ侵攻が起きており、これほど平和が求められている時代はないと思う。広島市外の方が中央図書館に行き、広島市の小中高生がどのような思いを持って平和学習に臨んでいるのかということに触れて、広島の平和学習について学び、来年度から少しでも我が県・市町村においても取り入れようとするような空気を醸成できるエリアを作っていただきたい。

(生涯学習課長)

平和学習資料室を作ることができるかどうかは、今後検討していくことになるが、広島を知るエリアはしっかり充実させていきたいと考えている。

(砂橋議長)

資料7ページの「学校や他の図書館との密接な連携の確保」について、良い形で連携が実現できれば素晴らしい取組になると思う。

また、同じく7ページの一番下に記載されている「効果的・効率的な図書館ネットワークの形成」について、現在、公民館への配本を実施しているのか御教示いただきたい。

(生涯学習課長)

公民館への配本は実施している。

(砂橋議長)

なぜこのようなことを聞いたかという、小さな子どもたちは中央図書館まで行くのが難しく、自転車でいける距離の区図書館か公民館の図書室を利用することが多いため、公民館は地域住民にとって一番親しみがある場所である。しかし、正直なところ、公民館の図書室はスペースも限られており、なかなか読みたい本がないという印象がある。そこで、「効果的・効率的な図書館ネットワークの形成」に関して、移動図書館のネットワークを整備したり、公民館で借りたい本が借りられるようにするなど、連携が広がればよいと感じた。

(平尾委員)

先ほど、時間をかけて議論する必要があると申し上げたが、私もいたずらに期間を延ばせばよいと考えているわけではなく、計画の中でも令和7年度中に供用開始とされている中で、スケジュールを大切にしなければならないという認識は同じである。しかし、プロセスの段階で市民の関わりがまだまだ薄く、図書館の再整備について市民の意見が盛り上がっているとは言えないのではないかと感じている。例えば、市民を巻き込んだワークショップや専門家の方を交えたフォーラムなどを開催することで、ようやく市民の間に機運ができてきて、そこで初めて自分事として図書館について考えることになり、皆で育てていく図書館が実現できるのではないかと。そういった平和文化における重要なプロセスを飛ばして再整備を進めるというあり方に、強い違和感を覚えている。スケジュールを前提としながらも、その中でいかに丁寧なプロセスをたどることができるかということをお願いしたいと考えており、ワークショップやフォーラムの実施についても具体的に検討してほしい。

(金谷委員)

今の平尾委員の御指摘に関連して、現在の図書館では、図書館ボランティアの活動があまり活発ではないという課題があるとのことだが、図書館の運営に関わっていただく方に対して、図書館ができてから声を掛けても協力を得るのはなかなか難しいと思う。施設ができる前から、その施設で活動することを想定している予備軍に声を掛けて、その人達の意見がどこかに反映された施設を作ることができれば、完成後に、その予備軍の方々が自分の関わった施設として愛着を持つ可能性が高い。また、現に、うまく運営している公立の施設の中には、施設を作る前から、ヘビーユーザーになるであろう人々を巻き込む工夫をしているところがある。再整備方針に記載された意見を反映させるのみではなく、将

来図書館運営の一翼を担ってもらう市民を発掘するという意識を持って、丁寧な議論とプロセスをたどる方が、間違いなく良い公共施設になるのではないかと思う。

現図書館の老朽化の問題があるとのことであつたが、現図書館はメンテナンスしながらあと何年ぐらい使える見込みなのか。もし、2、3年しか使用に耐えられないという緊迫した状況であれば、整備計画のスケジュールに関わってくる重要なことなので、御教示いただきたい。

(生涯学習課長)

あと何年使えるかという具体的な調査はしていないが、中央図書館は、耐震工事を行っていない施設であり、大きな地震により倒壊する危険性もあるため、できるだけ早急に再整備したいと考えている。

(板倉委員)

区の図書館をよく利用しているのだが、他の館から読みたい本を取り寄せられる予約サービスが大変便利で活用している。大学等の図書館とも相互貸借が可能になり、普段あまり読めないような本を読めるようになれば素晴らしい。現代は本離れが進んでいるが、本は一人の人間を救うとも言われているので、様々な連携を広げて、身近なところでたくさんの本に触れられるようにしていただきたい。

(生涯学習課長)

公民館の図書室に読みたい本が見当たらない場合には、公民館の窓口でリクエストし、その本を公民館で受け取ることができるサービスもある。そういった機能があることはなかなか知られておらず、そのことも問題であると受け止めているので、既存の図書館が提供しているサービスの周知にも努めていきたい。

(山田委員)

移転するかどうかという問題が背景にあるので、この場で発言をすることが難しいと感じている。資料そのものは、整備地の話とは切り離して、図書館の機能・サービスのあり方について記載されているが、都市型の図書館を目指す方向性も、従来のノスタルジックな図書館に惹かれる思いも両方理解できる中で、この場における議論の結果が、移転に影響を及ぼすのではないかと思うと、話がしづらいのが正直なところである。

(岩元委員)

市民の意見の中に、「本のソムリエを育成してほしい」という意見があつたが、そういった人と本を繋いでくれるサービスが図書館があれば楽しそうだなと思った。

(松本委員)

前回は移転ありきの議論であつたが、今回は、一度整備地とは切り離そうと整理されたことについては、よく理解できた。図書館を再整備するに当たり、丁寧なプロセスを踏むためには、市民の人にしっかり周知して、市民を巻き込んで意見を吸い上げることが大切だと思う。

(平尾委員)

早く再整備を進めなければならない理由として、耐震化が未実施であると言われたが、被服支廠のように、再調査した結果、想定していた補修費用が過大であることが判明した事例もあるので、予算の問題もあるとは思いますが、現図書館の耐用年数について改めて調査することも考えられるのではないかと。

(砂橋議長)

委員の意見は、期限を踏まえた上で、丁寧な議論を求めたいということ、そのためには、市民の意見のほか、専門家の意見も取り入れていく必要があるということだと思ふ。今回委員から出た意見をまとめて、論点整理をした上で、次回の会議に繋げていただきたい。